

様式 - A

用語	土壌雨量指数
よみ	どじょうりょうしう
解説	<p>降った雨がどれだけ土壌中に蓄えられているかを推定して指数化したもの。気象庁では土砂災害の危険性を判断するために用いている。指数は個々の急傾斜地を対象とした物ではなく、一定の広がりを持つ領域(5km×5km四方)を対象としている。</p> <p>土壌雨量指数がどのぐらいの値になったら危険なのかは地域によって異なる。そこで、土壌雨量指数の値がそれぞれの地域の過去何位にあたるかを求め、この10年で1位になった領域がまとまって出現した場合に、大雨警報の注意警戒文の中に「過去数年間で最も土砂災害の危険性が高まった」旨を明記し、一層の警戒を呼びかけている。</p>
用例 (主に活用される場面)	<p>「過去数年間で最も土砂災害の危険性が高い」旨を明記した注意警戒文の例</p> <p>((会津南部の、田島町付近や館岩村付近では、過去数年間で最も土砂災害の危険性が高くなっています。これから今日朝の内にかけて、多い所で更に100ミリの大雨となる見込みです。嚴重に警戒して下さい。))</p> <p>((高岡市付近と氷見市付近では過去数年間で最も土砂災害の危険性が高くなっています。又富山県では、浸水害や河川の氾濫にも警戒して下さい。))</p> <p>((輪島市及び能登南部のほぼ全域で過去数年で最も土砂災害の危険性が高まっています。警戒して下さい。))</p>
関連用語・類似用語	<p>実効雨量 スネーク曲線</p>
注意すべきポイント (防災上の注意すべき点)	<p>「過去数年間で最も土砂災害の危険性が高まっている」とのキーワードは、同時に「市付近」、「××地方では」など対象となる場所を特定した表現を用いることがある。尋常ではない状況の場合に用いるキーワードであり、関係機関には相応の対応をお願いしたい。</p> <p>なお、土砂災害の予測技術には、土壌雨量指数を用いる手法の他に、実効雨量等を用いる手法があるが、それぞれに長短があり今後も精度向上に向けた改良が必要である。</p>